県相同窓会

発行
県立相模原高校同窓会
相模原市横山1-7-20
TEL　0427-52-4133
郵便振替
横浜　8-22895
印刷
㈱佐藤印刷所

座談会　目標を高く掲げ、勝利に向かって努力

―県相サッカー部はこうしてインターハイに出場した―

県相サッカー部は、八月一日インターハイに出場した。惜しくも二回戦で徳島市立高校に二対〇で敗れたが、県代表になった実力はなかなかのもの。そこで今回、同部の坂本監督や選手からチームづくりのご苦労についてお話を伺った。

佐藤　このたびは、サッカー部の全国大会出場おめでとうございます。前々からその実力は聞いておりましたが、進学校でありながらインターハイまで出場できたというのは、すごいことですね。

中村　はい、これはやはり顧問の坂本先生のご指導とサッカー部諸君の日頃の練習やいままでの試合経験を生かした成果ということですね。また、出場が決まってからこころよく、かつスピーディーに資金援助などの対応を同窓会の皆様にしていただき誰んでお礼申し上げる次第です。

坂本　私からも一言お礼申し上げます。試合には二回戦（シード）で敗れましたが、お陰をもちましてサッカー部もインターハイで思いっきりプレーをすることができました。

佐藤　今回のサッカー部出場にあたっては、会員の皆様から目標以上のご寄附をいただきましたが、残額については次の機会のために「部活動派遣基金」としてプールしておきますので、サッカー部インターハイ出場に刺激されて他の部活もまた全国大会に出場できるといいですね。

中村・坂本　はい、ありがとうございます。

佐藤　ところで、私どもが在学中の頃は、個人でインターハイに出場した者はおりましたが、チームで参加できたのは今度のサッカー部がはじめてですね。

中村　ええ、そうなんです。サッカー部は、いままで「今年こそは全国大会に……」という気持ちで頑張ってきたと思います。会長さんのおっしゃるように、これが他の部活のいい刺激になって「俺たちも頑張らなくては……」ということになるとよいですね。

要求される選手の判断力

佐藤　直接ご指導にあたった坂本先生は、いままでどのような方針でやってこられたのですか。

坂本　特にこれといった方針はないんですが、ここまでこれたというのは、やはり目標を高く掲げてそれに向かって努力してきたことでしょうかね。実は、二度県大会で決勝まで行って敗れた経験がありましてね。そのくやしさは忘れられないわけです。でですから、日頃の練習でも「自分たちには何が欠けているか」といったところをポイントにレベルを高めるよう努力しました。

白井　他のチームとくらべて、進学校という時間の制約があるなかで、それぞれの選手が感性をもって智恵を生かしながら工夫した練習をしていると聞いていますが……。

坂本　もともとサッカーは、試合中の判断が選手に委ねられておりましてね。日頃から自分自身で考えてプレーをすることが要求されるわけです。練習も与えられたものをただこなすだけではダメなんです。選手自身がゲームイメージをつくり上げて試合の勘を磨いていく。そこが大切です。しかしながら、おっしゃるような練習方法ができるようになったのは、比較的最近になってからです。

佐藤　グラウンドマネージャーは、監督から練習のメニューを受けとってメンバーに伝達するそうですが、なかなかむずかしいことでしょうね。

萩原　はい、最初の頃は、皆に迷惑をかけていましたが、だんだんと先生からあずかったメニューが試合の中でどういうねらいがあるのかを考えて、それをメンバーに伝えた上で練習をはじめ、終了後はまた個々の意見の違いを話し合うことによって、意思の疎通が図られるようになりました。

坂本　練習を考えることが指導者の仕事の大部分といってよいでしょうね。後は、生徒に任せる。だから、与えられたことをただうのみにしていたんではレベルアップは望めない。

佐藤　そのレベルに行くまでが大変だったでしょうね。せっかく教えても生徒は毎年卒業してゆくわけですからね。

坂本　ええ。ただ先輩からプレーのしかたや練習方法などは継承されておりますのでね。

村上　先輩がときおり練習にきてくれまして、いろいろとアドバイスを受けますのでとても役立っています。

坂本　それと、県相の生徒は理解力もはやいし、勉強でもスポーツでも集中力があるので、私は九年間、サッカー部の顧問をしておりますが、ほんとうにやりやすかった。ただ、高いレベルのチームづくりを考えた場合、どうしても強いチームとの試合の経験不足がありました。そこで、県外のトップレベルとの対外試合ですね。昔のお侍の武者修行じゃありませんが（笑）、「他流試合」ですね、そこで、腕を上げていかないと強くならない。その経験を重ねて行ったわけです。もう一つは、サッカーばかりじゃないでしょうが、チームを強化するためには、メンバーが平均的じゃダメなんです。リーダーがいないとね。皆がついてきてくれる人材でないとね。その点、村上君は適任だったわけですね（笑）。

村上　それはありがとうございます（笑）。

白井　村上キャプテンは、今後チームに残しておきたいことは何ですか。

村上　そうですね、監督のおっしゃったように練習をただ単にこなすだけでなく、そこに工夫や創造性をもって真剣に取り組んでほしいと思っています。

佐藤　さきほどの「武者修行」にあたる対外試合は、年間どのくらいやるのですか。

坂本　県外だけで30試合は行います。静岡の清水東・東海一高などとも交流できるようになりました。全国的に見ると強い学校では、専用バスを持っていて対外試合のときはそれで移動するわけですが、本校では電車で移動します。これだと団体割引が使えるので、少ない予算で多くの成果を挙げています（笑）。

スポーツで養われる集中力

白井　強いチームにしていくためには、指導者のもつ役割というのが、かなり大きいと思いますが、坂本先生は本格的なサッカー経験者だとお聞きしております。

中村　坂本先生は、大学でもサッカーをやっておられましたが、県内でも数名しか持っていない国内とドイツの国際審判の資格があります。

佐藤　村上君は、坂本監督をどう思いますか（笑）。また練習時間や試合も多く休日などもあまりとれないのではないですか。

村上　監督は、やさしいところもあるんですが、サッカーに対する姿勢にはきびしいものがあります。たまの休日には、ゆっくり休んだり、多少遅れがちな勉強をしています。

中村　部活をやることによって根性が養われ、集中力が高まることはあると思います。去年も十一月まで部活に残った三年生のほとんどは現役で合格しています。

佐藤　そうなんです。グラッとしたメリハリのない生活態度より部活で思いっきり動いていた方が、勉強の効果もあがるわけですね。世の中でも何かものを頼むには、暇な人より忙しい人に頼んだ方が確実にやってもらえることって多いですからね。しかし、そうはいってもそれだけ試合が多くなると学校の行事とぶつかることもあるでしょう。

坂本　ええ、たとえばいちばん大事な試合の前に修学旅行があった時など困るわけですね。ある生徒は練習を、ある生徒は旅行をとるといった、生徒の自主性に任せて選択してもらっていますが。

佐藤　本校の生徒数から考えてもメンバーは他校にくらべて少ないようですね。

坂本　そうです、現在、各学年十人ずつですので総勢三十人なんです。同じ県立の中でも上位チームとしては、三分の一といったところです。私立は、サッカーで入学可能なところもあるようですが、県相の場合は入学時に学力が達していないと入れないので人数的にはきびしいものがあります。

勉強にもガンバる選手達

白井　その少人数の中で生徒の能力を引き出すのはかなり大変ではないですか。

坂本　さきほども言いましたように、本校の生徒は理解力がはやく、求めたものに百パーセント応えてくれます。他校の指導者の中には、言っていることが理解してもらえずサッカーから遠ざかる者もいるくらいなんですが、ウチの場合は心配いりません。

白井　少数精鋭主義というわけですね。最後に選手の皆さんから将来の抱負をどうぞ。

村上　ぼくは、将来は医学部に進学したいと考えています。

萩原　ぼくの場合は、特に何になりたいという具体的な目標はありませんが、当面法学部に進んで大学の中で多くのことを学びたいと思っています。

佐藤　いままでのお話を伺っていて、私どもの生徒の頃と今の生徒さんをくらべると、ずいぶんしっかりしたものの見方や考え方をしているなと思いました。今日は、サッカー部のインターハイ出場をめぐって、なぜ強いチームにすることができたのかといったところをお話いただきました。卒業生としては、だれでも母校の名誉は嬉しいものです。これからも勉強にスポーツに力いっぱい取り組めるような、そんな県相であってもらいたいと思います。本日はありがとうございました。（了）

写真／真田哲道（一期）
構成／斉藤雅章（十四期）
編集／山口秀夫（六期）

平成3年9月6日、相模原高校校長室にて。県相サッカー部のインターハイ出場をめぐって坂本監督を中心にお話を聞く。写真は向って右から中村校長、坂本監督、村上君、萩原君。手前の聞き手は、佐藤会長（右）と白井副会長。

出席者プロフィール

（敬称略）

坂本紀典（さかもと・きてん）
相模原高校教諭。担当は体育。教務主任。サッカー部顧問。サッカー歴は高校より20年のキャリア。市内相原に在住。

中村菊一（なかむら・きくいち）
相模原高校校長。昨年、津久井高校より県相へ。現在、県北地区校長会の会長を務める。町田市つくし野に在住。

白井憲二（しらい・けんじ）
2期生。同窓会副会長。担当は組織部会。市内下溝で東神奥楽㈱（旭鉄業）を経営。市内相模大野に在住。

佐藤功岳（さとう・こうがく）
1期生。同窓会会長を昭和60年から務める。市内大島の法性寺住職。同地に在住。現在、世界仏教連盟の副会長を務める。

萩原祥吾（はぎわら・しょうご）
相模原高校3年生。サッカー部グラウンド・マネージャー。共和中出身。市内東淵野辺に在住。

村上良道（むらかみ・よしみち）
相模原高校3年生。サッカー部キャプテン。旭中出身。市内橋本に在住。

平成4年度総会を左記にて開催します。

平成4年5月17日(日)午後3時より
於母校
議題
平成3年度決算承認の件、その他。
県相同窓会
会長　佐藤功岳
会員各位

CRAFT
クラフト株式会社
専務取締役　関　弘之（6期生）
本社　神奈川県相模原市橋本台3丁目14番24号
〒229　電話（0427）72－3335㈹
FAX（0427）71－5731番

for the next stage
SEKISUI HOUSE
積水ハウス株式会社　神奈川中央支店
菊地原　芳憲（第4期生）
〒243　厚木市中町4－4－13
☎0462(23)2621㈹　FAX 0462(23)4398

在庫豊富　10,000本
ファーストビデオ
清新小学校前　☎52－4771
代表取締役　金田正秀（6期生）

県相生 たずねて…

会長あいさつ

同窓会長
佐藤　功岳

会員の皆さん、いかがお過ごしですか。ここに機関紙第六号をお届けいたします。

もう既にご承知のこととと存じますが、母校サッカー部は去る八月一日に開催されましたインターハイに出場する栄誉を勝ち取りました。惜しくも初戦にて敗れてしまいましたが、本会にとりましても特記すべくことと存じます。

しかし、三十六名という選手団をインターハイに送るという経験を今日まで経ていないため、母校は派遣費の計上に窮し、本会に於いては拠出金に会則上の制限を有しております。

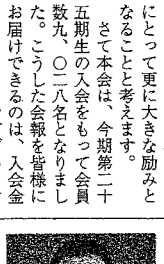
母校からの要請を受けて開かれた緊急理事会は、今後のことを踏まえ「支援基金」を新たに設定して皆様からのご協力をあおぎました。お蔭をもちまして別表の通り多くの会員から基金をお預かりすることができました。

このことは、母校在校生にとって更に大きな励みとなることと考えます。

さて本会は、今期第二十五期生の入会をもって会員数九、〇二八名となりました。こうした会報を皆様にお届けできるのは、入会金によるところでございますが、今日会員の増加と共に郵送料が増大し、財政に影響を与えるようになって来ました。平成五年には母校創立三十周年を控えておりますが、会員各位には前述の基金と重なり恐縮ですが、二、三年に一回程度の本会活動資金へのご援助願えれば幸甚です。

最後に会員各位の益々のご活躍祈念いたしご挨拶とさせていただきます。

校長あいさつ



学校長
中村　菊一

同窓会の皆さん、お元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。

その学校側の願いを快く受け入れて干さった同窓会役員の方々をはじめ、会員の皆様のご支援に対し、改めて、この紙面をお借りして、心より御礼申し上げるしだいです。

サッカーの試合は、皆さんのご期待にそえず惜敗しましたが、部員をはじめ、学校全体としましても、貴重な経験をいたしました。今後は、この経験を生かして、皆さんのご期待にそえるような学校づくりをしていきたいと思っておりますので、どうかよろしくご支援下さいますようお願い申し上げます。

二十年の歳月の移りかわり

菊地原芳憲（四期生）

菊地原芳憲さん

私が県相を卒業したのが昭和四十五年の高度成長期の真っ只中で、日本中が列島改造ブームに沸き上がっている時でした。その年には大阪で万国博覧会が開催され、私も太陽の塔や月の石を見に行ったことを覚えております。また、この時期は、地方より都心部へ多くの人が集まり、衣食は充足されたが、住宅問題が非常にクローズアップされている時であり、国の政策でも、住宅建設五ケ年計画が打ち出され、年間二百万戸の住宅を供給しようと官民一体となって、分譲住宅やアパートが建設されておりました。当時を思い出しますと、私は、農家の長男であり、家業を継ぐかどうか非常に悩んでおりましたが、上記の様な背景から、これからの成長産業は住宅産業だと勝手に思い込み、大学を卒業し、積水ハウス株式会社に就職して現在に至っております。今想うと、小さい頃より、大工さんが家に来ると、金槌と釘を持って、一緒になって屋根の上に登って手伝いをしておりましたので、本性として物を造ることが好きだったのかもしれません。幸いにも、勤務地が中央エリアを拠点にしている厚木営業所という事もあって、仕事がら、当時通い慣れた道や、県相周辺の住宅地の移り変わりを見ていると、改めて二十年間の歳月の移り変わりが思い出されます。現在私は、朝から夜遅く迄、会社人間として過ごしており、なかなか同窓会等に出席出来ないでおりますが、仕事の上では、諸先輩や同窓生と接する機会に恵まれたりすると、昔話に花を咲かせたりしております。最後に、同窓生並びに在校生の御活躍をお祈り申し上げます。

「僕の主治医」
―犬のゴン太より―

同窓会の皆さんはじめまして、僕は犬のゴン太と言うんだ。今日は僕の主治医である先生の話しをしたいと思う。僕の先生の名は矢敷動物病院の院長である」写真を見てくれ。立派な病院だろう！　この病院には院長先生の他にも医者の先生やきれいな看護婦さんがいるんだぞ、だから僕達にはとってもやさしいし、面倒を良く見てくれる、僕の飼い主が旅行に出かける時は、出かけている間中ホテルとして僕はここに泊まるんだ。それがすごく楽しみなんだよな。なぜって？だってここに泊まっていると、朝の散歩はちゃんとやってくれるし（夕方ももちろん）規則正しい栄養満点な食事もさせてくれる。それに僕の住んでいる家とちがって、とってもきれいなんだ。だから楽しみなんだ。でも何て言ってもやさしくて信頼のある院長先生が一番好きだな。

毎日毎日犬や猫やその他のいろんな仲間が病気で来るんだ。けっこう遠くからも来るんだ。タクシーにのって矢敷動物病院て言うとちゃんと運転手さんはわかるんだ。有名なんだなと思う。先生、僕達仲間の為にもこれからもガンバッてくれ！仲間も皆んなの応援しているんだ。「アッ」僕の飼い主がむかえに来た。それじゃあ同窓会の皆んな、しゃべるのはこのくらいにして僕は我家へ帰るからネ、こんど矢敷動物病院で会おう「バイバイ」。

代筆／大久保眞介（1期）

ゴン太の通う矢敷動物病院

組織部会だより

日頃より同窓会活動に御尽力を頂き、たいへん感謝しております。

特に、サッカー部全国大会出場を発端とした各クラブ等に対する基金に、相模原市役所在勤の皆さんはじめ多くの方々に御援助頂き、同窓会としても大切に拠出金を扱わさせていただく所存であります。

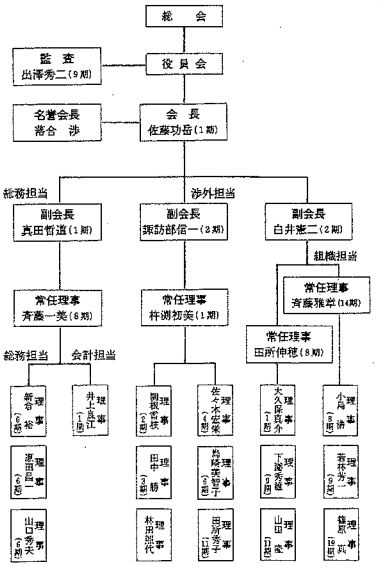
又、昭和62年度より、特別部会が組織部会と職域部会とを統合し組織部会となったのを契機に、如何にして同窓会の活性化をしたらよいかという永年の問題を討議した結果、まず卒業時のクラス委員に自分がクラスしてもらうことを再認識委員であることを再認識してもらうことが第一であるということから、新しい期で24、25期生のクラス委員と組織部会委員との懇談会を開いてクラス会等の開催の依頼をしました。もう一点は、クラス会もしくは同窓会等の開催にあたって組織部会としても各開催が容易に出来るように開催ガウハウと開催場所の紹介等をお手伝いしようと思っております。

すでに1期会、2期D組クラス会、3期女子の会、8期会、14期会、20期クラス会、24期会、25期会等が開催され、旧交を暖めています。ちなみに同窓会からは郵送費として1名あたり140円の補助を致しております。その他に、開催場所、開催の仕方などについては組織担当までご相談下さい。お待ちしております。（☎〇四二七（七八）一〇二〇）

最後になりましたが、世の中が平和で物の豊富な昨今、心の空洞化が進んでいるように思われます。心のゆとりを大切にする為にも、むかし懐かしい友と面会してはいかがですか!!

（臼井憲二（2期）記）

県相同窓会組織図



ご転任職員

（教諭）英語科
安藤　彰さん

たった一年という、自分でも驚くような記録的に短い間でしたが、この度自宅から歩いて通える相原高校に転勤いたしました。なんの御恩返しもできぬまま去ることを大変心苦しく思っております。昨年夏の広報紙にも書いた如く、私が教員になった年に開校された県相は、私にとって教員生活四つ目の学校でしたが、稀にみる出来の良い生徒たちの上にあぐらをかいてしまったような自分を深く反省しています。

ご着任職員

（教諭）英語科
小林加代子さん

漱石の坊ちゃんは「―制服を着た生徒に沢山逢ったが、みんなこの門を入っていく。中には俺より背が高くって強そうなのがいる。あんな奴を教えるのかと思ったら何だか気味が悪くなった。」と緊張しつつ新任校へ向かう。転任でも緊張感は同じで、さて、我が県相生は、と少々古くなった私は新任のH校で出会った理屈屋のM君を思い浮かべながら県相一日目を向かえたのでした。皆まじめで礼儀正しい生徒達です。共に成長できたらと思ってます。

私の教員生命もあと十年、できるだけ多くの学校を見て回りたい心境ですが、家庭の事情もあり、可能かどうか……。

Farewell to Kenso

・事務の井上泰志さんは、県相から相原高校へ転任されました。

（事務）
松田智雄さん

昭和六十年に神奈川県に採用されて以来、二校の高等学校の勤務を終え、年度途中の六月に県相に、まいりました。前任の二校が新設校であったため県相の歴史（校舎）の古さ、樹木の多さには、ただただ圧倒されています。今後ともよろしくお願いします。

旅のお申し込み・お問い合わせはお気軽に
運輸大臣登録一般旅行業第2号
日本旅行　横浜教育旅行支店
〒231 横浜市中区南仲通3-35 横浜エクセレントⅢ
一般旅行業務取扱責任者　村田利秋
県立相模原高校卒業　村田憲治(13期)
営業時間(日・祭日は休み)
☎045-641-9600
月～金曜　9:30～17:30
土曜　9:30～12:30

不動産・会社に関する登記
司法書士　宮崎和彦事務所
(14期生)
相模原市富士見6－1－23－201　TEL 0427(69)5265
★ 司法書士には、守秘義務が法律上厳格に課せられておりますので、安心してご相談下さい。

2期生の皆さんお元気ですか
協和産業株式会社
代表取締役　加山和明（2期生）旧姓 菅田
相模原市東橋本3丁目5番43号
TEL　0427(79)2860

地域に 卒業生を 世界に

夢は生徒のオリンピック出場

三畑　義則（一期生）

三畑義則さん

同窓生の皆さんこんにちわ。役員の方々御苦労さまです。いつも同窓会会報を楽しく拝見させて頂いています。卒業以来早いもので25年になりますが、現在私は兄と共に社会教育の一貫としての民間体育教育に専念しております。所在地はといいますと、相模原市の南部小田急線相武台前駅より徒歩十分ほどの所です。私のスポーツクラブは昭和51年にスイミング、体操、剣道、トレーニングなど幼児から大人迄の会員制のクラブとして発足して早や15年の月日が流れました。

私のもう一つの夢として、生徒を世界のスポーツの舞台オリンピックに出場させるという夢がありましたが、ロサンゼルスオリンピックでこれを実現させた事、それも私の好きな体操で出場出来た事が、この事業に取り組んでの最大の喜びでありました。次回の開催地バルセロナに、今度は水泳選手を出場させたいと、夢をふくらませております。

そしてこれからはスポーツクラブのチェーン化をめざしたいと願っております。現在三千人以上の子供及び大人の会員達が水泳を始めとして各種のスポーツを、楽しみ健康作りに大いに汗を流して頂いており、又、子供達は水泳を通して心身を鍛え、日々健康作りに、励んでいる様子を見ておりますと、この事業に関わって努力してきた事に嬉しさを感じます。

現代は運動不足などと深刻に言われておりますが時代になっておりますが、大人も子供も、自分の健康に対して、前向きに取り組んで、いただきたい時代になってまいりました。

又私のクラブでは大人の方達の為に、サウナ設備、フィットネスクラブを拡張しプールにおいても水深を、1メートルル20センチにし充実したスポーツクラブ施設を作り上げました。

現在ミハタ総合スポーツクラブ、関田総合スポーツクラブ、協栄スイミングクラブの三クラブへと増えて参りましたが、目標は十クラブを作り上げたいと、夢をふくらませている私です。

尚、これからは指導者（インストラクター）の育成に力を注いで行きたいと考え、学校法人三畑学園を昨年、設立致しました。

これも、これからスポーツクラブの充実を計る目的をもって若い力を必要とし、各スポーツクラブで活躍出来るインストラクターの育成に努力して行きたいと思っております。

何れにしましても生徒のオリンピック出場を目的としながら、社会体育教育に一石を投じる事が出来るように頑張って行きたいと思います。最後に同窓会の益々の発展をお祈りします。

わたしたちの街

グリ～ンウェ～ブ・相模原'92

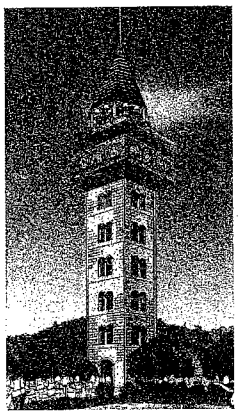
第九回全国都市緑化かながわフェア（愛称グリーンウェーブ・相模原'92）が平成四年十月三日(土)から十一月二十三日(月)までの五十二日間、ここ相模原の地で開催されます。

この緑化フェアは建設省の提唱により毎年、全国各地の都市を会場に開かれています。相模原市での開催は、政令指定都市以外では初めてで、県と相模原市、財団法人都市緑化基金の主催で行われます。

会場は麻溝台の県立相模原公園と、隣接する市立相模原麻溝公園の計三十四ヘクタールです。

会場全体を街、光、郷土（さと）の三つのゾーンに分けて「みどりの波を今、神奈川から」：相模原から緑の発信…をテーマに開催されます。

街のゾーンには相模原市が出展するパビリオンと、恒久施設となる展望塔があります。



パビリオンは二千平方メートルの敷地に三百席のメーンシアターなどをつくり富士山を背負うほどの巨人を主人公にした「でいらぼっち伝説」をアニメーションと相模原の風土の実写を組み合わせた映像で上映します。

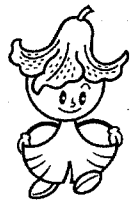
隣接して建設される展望塔は、「でいらぼっち」の目の高さから市内を再発見しようという狙いから、高さ五十五メートルで地上三十八メートルの位置には、五十人収容できる展望室が設けられます。そのほかにはふれあい動物ひろば、サーカスランドなどがあります。

また、光のゾーンには、このフェアの中心となる地下一階地上二階建ての首都圏最大級の大温室を持つテーマ館があります。この大温室では熱帯雨林などの植物の暮らしを展示したり、また特別展示として蘭、ベゴニア、バラなどの展覧会も行われます。

郷土（さと）のゾーンには友好のステージやこどもの城などがあり、楽しい遊びのエリアでもあります。

前売り入場券は大人六百円、高校生四百円、小、中学生二百円でいずれも当日入場券の百円引きで、更に抽選で豪華な景品も当たります。

取材／佐々木宏栄（4期）



リリちゃん

寄附者名簿

寄附をお送り下された方々、ありがとうございました。

寄付は会の運営につかわれます。同封の振込用紙でいつでもお受けいたします。

川井　隆	5,000円	内出　裕	2,000円	長塚静男	2,000円		
野地千江美	3,000円	内出貴之	2,000円	佐藤季生	5,000円		
富澤紀子	2,000円	三澤孝道	10,000円	新妻浩一	2,000円		
佐藤智	2,000円	出口真由美	1,000円	吉田朱見	10,000円		
片野一二	2,000円	宮崎秀樹	10,000円	上原孝利	3,000円		
小俣泰浩	2,000円	佐藤みつる	2,000円	江成登志雄	5,000円		
今井徹	3,000円	廣津ひとみ	3,000円	坂東幸子	1,000円		
杉本紀美江	3,000円	栗原知子	2,000円	千早直子	1,000円		
田所衛司	5,000円	石川朋子	3,000円	今井茂	15,000円		
新井英教	5,000円	久米原多恵子	2,000円	渋谷恵子	5,000円		
岡村義雄	1,000円	村木孝昭	3,000円	加山和明	30,000円		
清水由香	2,000円	安藤文雄	1,000円	樋口一孝	5,000円		
佐藤はる代	2,000円	八木宏司	3,000円	遠藤照子	1,000円		
翁長誠	2,000円	柳詠子	2,000円				
篠崎浩行	3,000円	和田一雄	3,000円				

平成2年度事業報告

自平成2年4月1日
至平成3年3月31日

年月日	会議名	内容
2.4.10	第1回定例役員会	①総会資料作成にあたっての各部会事業報告と事業計画（案）の提出について
2.5.17	第2回定例役員会	①総会準備（資料説明等）
2.5.20	第12回定期総会	①平成元年度事業報告 ②〃　〃　決算報告 ③監査報告 ④役員承認の件 ⑤平成2年度事業計画 ⑥平成2年度予算
2.6.17	第3回定例役員会	①各部会報告 ②平成2年度事業計画の具体化について ③年間スケジュールの協議 ④クラス会学年会とも一名当たり@140円の事務経費を補助
2.7.22	第4回定例役員会	①同窓会新聞（第5号）の発刊について ②各部会報告 ③ファイル、ファイルボックスの配付
2.9.1	第5回定例役員会	同窓会新聞の発刊について
2.11.10	第6回定例役員会	同窓会新聞の発送準備（ラベル貼り）
2.11.11	第7回定例役員会	同窓会新聞の発送作業（封筒詰め）
2.12.4	第8回定例役員会	第25期生同窓会入会記念品の件
3.2.3	第9回定例役員会	〃
3.3.24	第10回定例役員会	①平成2年度収支(仮)決算の件 ②各部会報告

各部会報告

総務部会

1. 定例役員会並びに常任理事会の設営・開催及び動員
2. 第12回定期総会資料の作成
3. 第5号同窓会新聞掲載のための座談会の開催（平成2年8月23日）
4. 第5号同窓会新聞の発行と送付
5. 同窓会入会記念品の作成配付
   平成2年度卒業生に対し1人500円の予算内で記念品を贈呈。
   会長あいさつ・同窓会規等を掲載した"日用字典"を配付。

渉外部会

1. コンピュータへの入出力作業等
2. 同窓会入会記念品の作成配付(総務部会と協力)

特別部会

【職域担当】
前年度に引き続き、比較的同窓生の多い企業へ訪問し、同窓会名簿を頒布しながら、同窓会への協力（各企業における名簿の作成、整理及び管理等）をお願いした。

◎訪問先
相模原市役所　相模原市農協　相模原信用組合等

【組織担当】
1. 平成2年11月3日に8期会を結成。
   ア・ドマニー（市内相模原）にて開催。
   8期会の役員選出と8期会基金の成立。同窓会本部からの補助金を軸に、特別部会役員が直接まとめあげた。
2. 「3期会女子の集い」への助成
   3期の女性が親睦を深めるため、毎年、相模原公園等で自主的に開催。
   3期生は、比較的女性が少なかったため、少人数でまとまりやすく定期的に「集い」が開かれていた。今年度から、補助金や特別部会からのノウ・ハウを受けて、今後は3期会へ向けてスタートする予定。
3. 平成3年3月26日には、24期生の交流会を開催。前年度卒業の24期生が、学校内の原田理事と連絡を取り交流会を開いた。当日は、サッカーのトーナメント大会、終了後は、ラポール千寿閣（市内上鶴間）で同期会パーティ。続いて各クラス会へと散会。
   学年同窓会補助と初年度のクラス会補助を受けた。

平成2年度収支決算報告

自平成2年4月1日
至平成3年3月31日

1. 収支報告書　（単位：円）

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	6,574,915	通信費（注6）	574,495
入会金（注1）	1,905,000	印刷費（注7）	597,400
寄付金（注2）	233,032	事務費（注8）	76,470
広告料（注3）	165,000	会議費（注9）	19,200
受取利息	83,381	交際費（注10）	265,000
雑収入（注4）	6,500	補助金（注11）	358,735
名簿売上（注5）	230,000	委託費	0
		事務費（注12）	100,000
		運営費（注13）	125,000
		名簿作成（注14）	1,730,400
		小計	3,846,700
		次年度繰越金	5,351,128
収入合計	9,197,828	支出合計	9,197,828

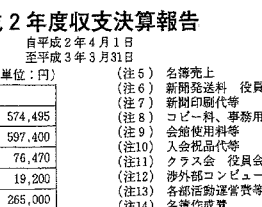
（注1）同窓会入会金　381名分　25回生
（注2）同窓会会員寄付金　42件
（注3）新聞掲載広告料　11件
（注4）タックシール代　2件（8期　20期C組）
（注5）名簿売上　46冊
（注6）新聞発送料　役員会案内ハガキ　切手代等
（注7）新聞印刷代等
（注8）コピー料、事務用品等
（注9）会館使用料等
（注10）入会祝品代等
（注11）クラス会　役員会補助等
（注12）渉外部コンピューター入力費用
（注13）各部活動運営費等
（注14）名簿作成費

2. 財産目録
   (1)現金　119,206円
   (2)定期預金　4,400,000円
   普通預金　813,977円
   郵便振替　17,945円
   (3)ディスクユニット　一式（平成元年購入　価格220,000）

平成2年度同窓会会計を以上のとおりご報告致します。
平成3年3月31日
神奈川県立相模原高等学校同窓会
会長　佐藤功安
副会長（総務担当）　真田哲直
理事（会計担当）　井上良江

高級クリーニング専門店
毛皮・皮革製品・和服・ジュータン・保管管理・水洗い・ドライクリーニング
布団丸洗い及び綿打ち直し・仕立て・
クリーニング関係ご相談受け承ります。
美鈴クリーニング
国家認定クリーニング師
伊藤安夫（2期生F組）
〒229 相模原市相模原5－9－6
TEL (0427)52-3175(代表)

私達、相模原でがんばっています。
東京地方税理士会
相模原支部所属税理士
門倉和博（7期）　市内相模原2-13-2服部ビル　(52)7343
石川朋子（8期）　市内相模原2-20-18-102　(53)4771
鈴木健司（10期）　市内千代田1-6-1久保田ビル　(52)5012
小山智祐（11期）　市内清新5-5-8　(79)1638
宇都直子（16期）　市内清新5-5-8　(79)1638

トウキョウ堂　県相特約店


靴、カバン各種スポーツ用品
adidas特約店
相模原市相模原1-5-16
TEL (0427)56-2546

会員の広場
いつまでもなつかしいあの頃
―最近の同期会・クラス会など―

8期同期会
山崎晴道

平成二年十一月二十三日に第一回八期会が相模原市内のレストラン「ア・ドマニー」で開催されました。

前号での八期会旗揚げの記事での呼びかけに答える様に、当日は百五十名の同期生と落合名誉会長を始めとする十一名の恩師の先生方および白井同窓会副会長の出席をいただきました。

受付の段階からなつかしい友の顔を見るやいなや、皆、大変な盛り上がり様で、すでに会のボルテージは最高潮。篠崎先生の音頭による乾杯の後は各先生方を酒の肴にしようとの提案で先生方全員前の壇上へ。そこで近況報告やら、今だから話せる昔話やら、そして各クラス毎の写真撮影、有志持ち寄りの景品の抽選会など二時間半の予定が三時間に。さらに同所二階のレストランでの二次会にも予想を上回る九十名の参加とどれもこの会の成功ぶりが伺えます。またこの機会にとクラス会の日時を決めるクラスもかなりありました。

三次会以降へと繰り出すグループも相当数ありそれぞれの変らぬ友情を感じました。また、この会の席上で「八期会基金」の設立が発表され、五年後の第二回八期会にてその使途を決定する事などを出席者全員の賛同を得て承認されました。

6ヶ月の準備期間と多数の協力者の努力により開催された会でしたが我々の原点は相模原高校での三年間だったのだという想いを確認し合いながらの楽しいひとときと、苦労もふきとぶ充実感いっぱいの一日でした。

恩師を囲んで記念撮影

第11回吹奏楽部定期演奏会
15期3―D　小田島賢

高校を卒業後二年目より吹奏楽部のトレーナーとして吹奏楽部を指導してきました。吹奏楽部は創設より、部員同士あるいは卒業生が指導者を務めて来ています。

私自信は、専門の音楽的な勉強をして来たわけではなく、たまたま引き受けてその後十年続いたというわけです。大学生のころには自由な時間も多く、細かな指導も可能でしたが、就職してからは、週一回程度の合奏指導しかできないのが現状です。

決して負担の少なくない指導を今だに続けているのかと言えば、何よりも高校生が一所懸命やろうとする姿が一番大きな要因だと言えるでしょう。言い換えれば、高校生の行動するパワーにはそれだけの魅力とエネルギーが有るのだと思います。

五十人以上の人間が、力をあわせてひとつの音楽を創ることは、決して簡単なことではありません。高校生なりにそれぞれが考えながら努力しているのを見ると、十分ではないにしろ手伝おうかという気持ちになります。もちろん、もっと条件の良い専門的な指導者がいることが望ましいのですが、経済的な理由などで部活としては迎えられないのが現実です。

県相吹奏楽部として、部員が納得ゆく活動ができるようになることは容易なことではないでしょう。私としても、だんだん難しくなってくるでしょうができる限り、支援・指導を続けてゆきたいと思っています。

150名が集まった8期会

定期演奏会で指揮をとる小田島さん

定期演奏会での県相吹奏楽部

24期同期会
小代賢舟

今年3月25日(月)、昼の部（サッカー大会）と夜の部（千寿閤懇親会）二部構成による我々24期生の同期会を行いました。以前からの夢の企画に向けて、1月頃に失敗するかも知れないけれど、自分達の手でこの会を行ってみたいと望む有志を集め、各々クラス2名程度の代表者会を持つことが出来ました。同会における第一の課題は、先ず挙行日の決定でした。浪人生も居ましたので、3月の後半で平日ならば会場も取り易いだろうとの意見になり、様々な模索を行いました。これから同様の企画で、同期会を行う同窓生の皆さんに簡単に順を追って説明致します。

①日程が決まったら往復葉書を使って全員に招待状を送付する。(締切りを1週間位として設定する。)

②およその参加人数を把握する。(葉書が戻らない時はTELにて確認を入れる。)

③人数に見合う会場を探しに行く。(会場が希望する日に一致しない場合は、振り出しに戻って再検討する。)

④会場・日時・費用を正式に決めたら、参加予定者に連絡を行う。

以上の様な構想から、開催に至る迄に幾分曲折を経ながらも、久し振りの友との再会は楽しいものでした。

準備の期間に比べて短くも思えた同窓会でしたが、自分達の手で会を成功させたのは感動そのものでした。

皆さんにも是非チャレンジして欲しいものです。

困難の中にも自信が生まれ、深まり行く友情の絆を確かめる事が出来たのです。

昼の部でサッカー大会を（24期生）

第25期3―Aクラス会
仙田あかね

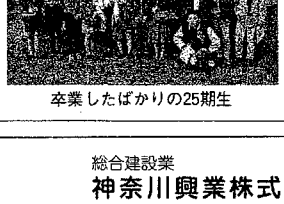
私は、今年の三月に高校を卒業したばかりですが、25期の同期の皆様は、お元気でしょうか。

さて、私達3年A組では去る8月16日(金)、相模原駅前の鳥忠において、クラス会を行いました。当日は、担任でいらした岩井先生、副担の山本美和先生もお越し下さり、またクラスメートは46名中32人と言った70%に及ぶ高出席率となり、大変ににぎやかなクラス会とすることが出来ました。

まだ卒業したてとは言えど既に5ヶ月が経過し、それぞれが巣立っていった大学の授業の話、サークルの情報交換、はたまた中心的(?)とも言える勉強の話に花が咲き、再開の一時を楽しく過ごすことが出来ました。

皆で食べたり飲んだりしながら、終わりの無い話に夢中になり、時の過ぎることも忘れて居たところ、(まさしく宴もたけなわ)まるでそれを見計らったかのように、クラスメートの男子が、アメリカから体験入学に来て居た堀江咲織さんからのお手紙を読み上げてくれ、再び、話のところどころで笑いが起こっていました。

ちょうど中締めとなった一幕でしたが、その後も、しばらくの間歓談が絶えず解散の時間が来てからすら、皆帰るのもまだ名残り惜しい感じで、「次のクラス会は来年の3月だね。」などと言い合っているのが、どこからともなく聞こえて来ました。とても楽しいひとときを持つことが出来て、皆にとって夏休みの良い思い出になったようです。


卒業したばかりの25期生

在校生が外務大臣奨励賞を
―カンボジア人との交流をエッセイに―

前の号で紹介しました『桑の実会』の一員として活動されている三年生の黒川玲子さんが、〝えがおで・あい―途上国とのふれあいの中で〟をテーマとした『高校生エッセイコンテスト91』(国際協力事業団主催、総理府、文部省、産経新聞社など後援)に応募、見事特選外務大臣奨励賞に輝きました。このコンテストは、今年で三十回を数え、黒川さんの作品は約九千三百本の中から選ばれたものです。『カンボジア人チョムさんと私』というタイトルです。

カンボジア難民の女性チョムさんに日本語を教えるという体験を通じて、彼女は、難民の人々の苦労や、自分たち日本人に対しての反省をこの作品の中で述べています。内乱のため教育を受けられず、母国語のカンボジア語さえ読み書き出来ないチョムさんに日本語を教える苦労。幼い頃日本に来たため日本語しか話せないチョムさんの子供と、日本語を片言しか話せない母親との争い。そして私たち日本人の難民の人々の不安や孤独への理解の無さ。そして、日本人の他のアジア人に対する不遜な優越感に対する反省。黒川さんはエッセイの中で、自分の感じた事をありのまま素直に書いています。特に、日本語をあまり話せない子供と、日本語をあまり話せない母親との諍（いさか）いを見て、どうしてあげることもできない自分の事を書いている所などは考えさせられます。この親子が楽しそうに話している姿は見たことがないと書かれています。

しかし、彼女はエッセイの最後で、次のように書いています。

「わたし……うれしい。」

最初に出会った時に彼女から聞いたこの言葉が部活でこうという私の気持ちをかりたてている。私はこれからも彼女の家に通い続けるつもりだ。』

チョムさんの家に通って、いろいろな事を感じながら、彼女自身も成長し、自分の出来る事があれば、少しでも前向きに努力していこうという姿が見られます。

夏休みのある暑い日、黒川さんに会って、いろいろ話を聞くことができました。

明るくはきはきと話す女の子で、時を忘れて楽しい時間を過しました。ボランティア活動にも肩意地張ることなく素直に取り組んでいる事や、記事の前半に書いた事などを話してくれました。彼女は三人姉妹の末子だそうですが、夜など家族が団欒を囲む時などはあまりのにぎやかさに隣家から苦情が出たりするそうで、明るく暖かな家庭の中で、素直にのびのびと育ってきた事が窺（うかが）われました。

九月からスペインに留学するそうです。スペイン語は話せるのと聞きましたら、「殆ど話せないけれど、まあ、何とかがんばります。」と言っていました。きっと、今頃は、スペインの空の下で、あの屈託ない明るさを振りまいて、楽しい留学生活を送っていることでしょう。

写真と文／福田文子(8期)

三年生の黒川玲子さん

お詫びと訂正

前号（第五号）一面座談会のリード部分で一期生の入学式が上溝高校とあったのは市民会館の誤り。

また、「四面の寄附者名簿欄で志村佳奈美様、志村友訓様（各千円）のお名前の記載もれがありましたので、お詫びとともに訂正いたします。

■お便りの中から……

同窓会の役員の皆様、本当に御苦労さまです。今春より山形に転居いたしましたが、会報を頂き、神奈川がそして県相がとても懐しく思われました。ありがとうございます。　會田晴美（12期　旧姓　佐藤）

この春、下関に移住して来ました。結婚以来、相模原から離れていてので帰る度に、その発展ぶりに驚かされます。本州の末端に住んでいても、会報が届き嬉しく懐しく拝見しました。　新内和美（14期　旧姓　岩佐）

現在は3才の女の子と1才の男の子の2人の母として専業主婦をしています。役員の方々、御苦労様です。　島村晴美（13期　旧姓　政木）

今年6月に結婚し、住み慣れた神奈川県と相模原市を初めて離れました。慣れない名古屋の新しい生活もようやく落着いて来ました。今まで以上に、「県相同窓会」の記事を読むことが楽しみになりそうです。　平松典子（17期　旧姓　森）

毎日東京上空ならびに神奈川県の一部（中央自動車道上空）を飛行しております。　磐視庁・航空隊勤務　富田健司（17期）

12月の22、23、24日に剣道部の顧問の先生だった清水先生(旧姓　南出)を6期の女子部員でたずねる小旅行を計画中です。役員、理事の皆様、こんごともヨ・ロ・シ・ク！同一団地内で転居、ローンをかかえる身となりました。　十早直子（6期　旧姓　歌川）

秋田県に移転し、それまで趣味で作っていたテーブルや家具作りの仕事を始めました。　杉山孝史（2期）

87年1月、大阪に転勤しました。また昨年10月に結婚。相手は県相の同級生（旧姓　中野真由美）です。2人でなつかしく会報を読まさせて頂きました。　阿部進介（15期）

県相卒業後、都立大から第一生命に入社し、現在、東京本社にいます。今まで同窓会のある事を知りませんでした。妹も県相で、57年に結婚し、角田郁子から高橋郁子になっています。三菱重工安全福祉課に勤務しています。　角田光浩（8期）

3.年程前から流山市内に越しました。現在は二児の母親となり、住まいとなりの喫茶店「シェスタ」を主人といっしょに営んでおります。　林京子（9期　旧姓　中島）

スタッフ募集（同窓会からのお願い）

県相同窓会では、コンピュータの会員登録作業や新聞編集などのお手伝いをしていただける方を募集しています。ちょっとの時間、同窓会活動の発展向上のために使ってみませんか？

また、同窓会新聞（年1回発行）の広告（1件15,000円）も受け付けておりますので、お気軽にご相談下さい。

県相同窓会　☎0427(52)4133 原田先生まで

総合建設業
神奈川興業株式会社
代表取締役社長　大久保　眞　介（1期）
Kanako
本社　神奈川県相模原市麻溝台5丁目18番1号
TEL　0427-46-1221(代)
FAX　0427-49-0520

引越はドーンとおまかせ！
相模運輸引越センター　☎0427-63-5999
引越おまかせDON
常務　吉田修一(12期)